

資本主義、メディア、 コミュニティ

エネルギー危機の時代を生きる



ネコ缶が食べられなくなるって、ほんと!?

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

目次

- 経済成長を進めた結果、どのような時代が訪れようとしているのか？
- 人々はどのように行動しようとしているのか？
- 日本では何故あまり伝わらないのか？

2008.9.9

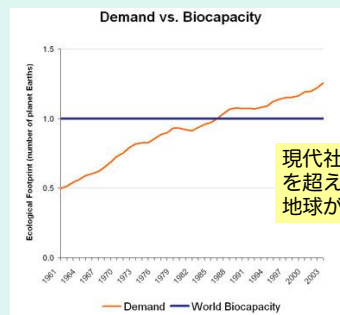
サステナブルコミュニティづくり講座

経済成長を進めた結果、どのような時代が訪れようとしているのか？

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

エコロジカルフットプリント



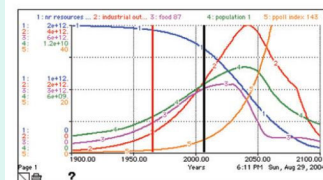
出典：Global Footprint Network

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

成長の限界

ベースシナリオ



© Dennis Meadows, 2007

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

このまま成長を続けていけばやがて崩壊してしまう

汚染
人口
工業生産高
食糧
資源

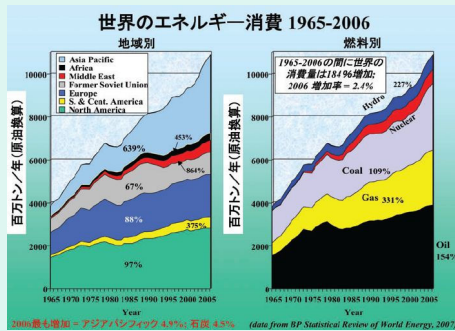
トリプルリスクの時代

- 地球温暖化リスク
⇒ IPCCの最悪のシナリオ (CO2排出量2.3%増加/年) より悪化している (3.1%増加/年)
- エネルギーリスク
⇒ エネルギー危機 (世界の石油生産ピーク) が迫っている？
- 食糧リスク
⇒ 温暖化の影響、バイオ燃料との争奪戦、世界の食糧備蓄は危険レベルまで低下
温暖化も危機的状況だが、エネルギー危機がそれより先に到来するとされている! ?

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

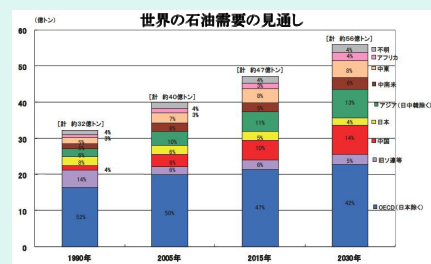
エネルギー消費の動向



2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

エネルギー消費の動向

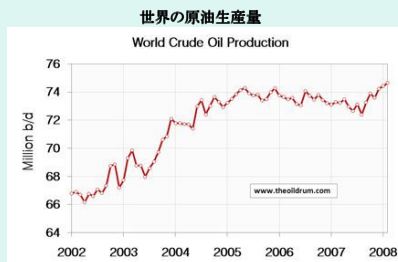


今後25年で40%増の見込み
出典：エネルギー白書

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

エネルギー消費の動向



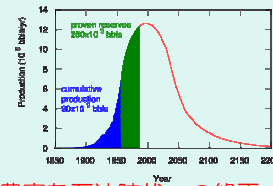
出典：The Oil Drum: Europe

石油生産はすでに頭打ち
今後の需要を満たす石油はない？

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

ピークオイルとは？

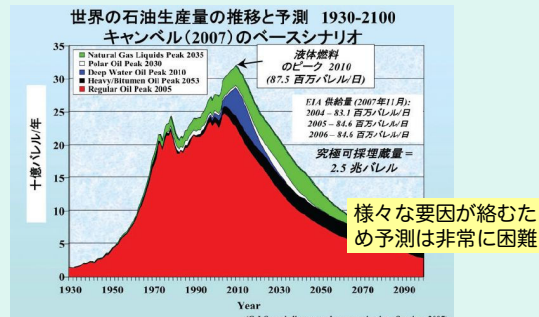


「安くて豊富な石油時代」の終焉。
石油生産量がピークに達し、減りゆく生産量と旺盛な需要とのギャップが急激に広がり、その後世界は予測困難な石油不足の危機的状況を迎えるという考え方（早期ピークオイル論）

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

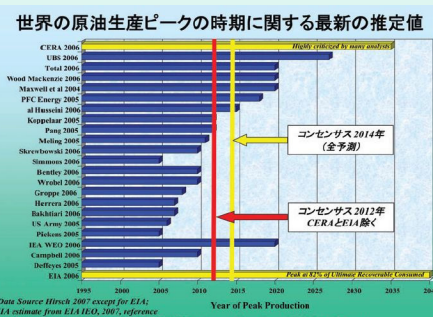
ピークオイルはいつくるのか？



2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

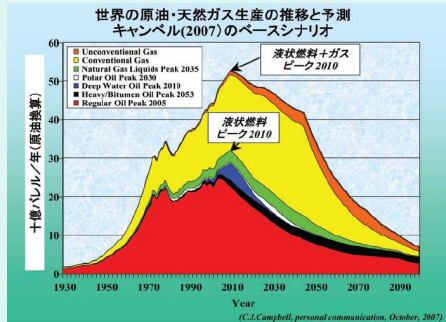
ピークオイルはいつくるのか？



2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

天然ガスはどうか？

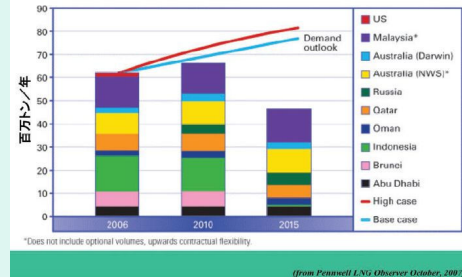


2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

天然ガスはどうか？

日本のLNG供給契約量(2015年まで)と需要とのギャップ



2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

人々はどのように行動しよう としているのか？

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

手を打たなければどうなるか？

- 温暖化対策
⇒ 京都議定書を守れなかったら
1トン50ユーロだったとして
5%不足なら2.6兆円、10%不足なら5兆円以上
- ピークオイル対策
⇒ エネルギー輸入コストの高騰
2007年：20.1兆円（1バレル77ドル）
消費量は同じ、石炭・天然ガスは同じ値段だとしても
1バレル130ドルなら：30兆円
1バレル200ドルなら：43兆円

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

どうすれば良いか？

- ハーシュ報告書(2005年2月米国エネルギー省)
⇒ 主として「液体燃料」問題であり、交通・運輸部門の対策が急がれる。緩和策をとらなければ、大々的な経済激変が引き起こされることはほぼ確実。遅くともピークの10年前にできれば20年前から着手すべき
- コリン・キャンベル氏
⇒ 各国が協調して石油消費を削減（石油減耗議定書）
- マシュー・シモンズ氏
⇒ 石油と天然ガスから代替エネルギーに移行するための時間がない。
唯一のオプションは経済を縮小させることだ

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

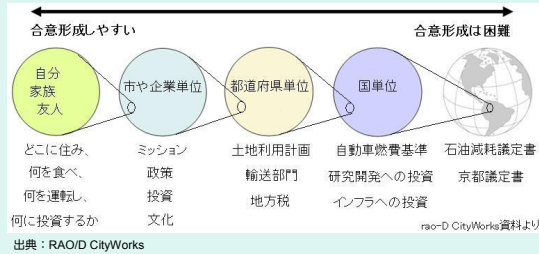
どうすれば良いか？

- リチャード・ハインバーグ氏
⇒ 国際協調による計画的な資源消費削減が望ましいが政治的に実現は難しい。並行して個人や家族単位ではなく、地域コミュニティ単位が連携した生き残りの戦略が必要。
ピークオイル対策と地球温暖化対策の橋渡しが必要。
自己防衛のためなら負担増を受け入れやすい。
- 石井吉徳氏
⇒ 石油漬けの日本農業、現代文明に警鐘

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

あらゆる社会レベルでの対応が必要



2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

国や大都市の動き

- スウェーデン
⇒ 2020年までに脱石油社会へ
- ドイツ
⇒ 20世紀は自動車の世紀、21世紀は自然エネルギーの世紀
- サンフランシスコ
⇒ 全米で初めてピークオイル決議を可決（2006年4月）
- ポートランド
⇒ 市議会がピークオイルタスクフォースを設立（2006年5月）

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

都市やコミュニティの動き

- トランジションタウン（英国）
⇒ 気候変動とピークオイルのショックに耐える、自立的な地域経済やコミュニティを構築しようとする運動
日本にも展開？
- リローカライゼーション（米国）
⇒ 気候変動とピークオイルの防衛策としてエネルギーや食糧の自給率を高めようとする運動



温暖化、エネルギー危機、食糧危機を分けて考えていない
この危機をポジティブなチャレンジを捉えている

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

国内の動き

- 東京都
⇒ 再生可能エネルギーを2020年までに20%
 - 福田ビジョン
⇒ 2050年までにCO2排出量を60~80%削減、太陽光発電の普及率を20年までに10倍、30年に40倍
 - 脱石油戦略の推進について（経済産業省）
⇒ 2030年に石油依存度を50%⇒40%
 - エネルギー白書2008（資源エネルギー庁）
⇒ 早期ピークオイル論は否定
- 温暖化、エネルギー危機、食糧危機を個別に対応？
エネルギーセキュリティに対する緊急性の認識なし？

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

日本では、なぜあまり
伝わっていないのか？

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

海外での扱われ方

- 欧米の主要メディア
⇒ Wall Street Journal, Financial Times, Washington Post などでも取り上げている
- 映画
⇒ The END of SUBURBIA（郊外生活の終焉）
- 情報サイト（インターネット）
⇒ Energy Bulletin, The Oil Drumなど、ピークオイル関連の情報発信
- テレビ（インターネット）
⇒ peakmoment.tv（ポジティブにピークオイル危機を乗り越えようとしている人々へのインタビュー）

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

伝わりづらい背景は？

- 早期ピークオイル論への反論
⇒「狼少年」なのでは？
- 石油産業や産油国の事情
⇒石油を消費してくれないと困る？
- 地球温暖化に対するロビーイング活動、プロパガンダの前科
⇒米国の石油、石炭、自動車会社のロビイスト集団、OPEC諸国政府が暗躍？
- マスメディアのスポンサーへの依存
⇒クライアントに不利なことは言えない

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

真実を知るために

- メディアリテラシーを高める
⇒マスメディアがいつも真実を語るとは限らない
- 一人ひとりが信頼できる情報源を持つ
- 大切に思うことは情報発信して、仲間やコミュニティでシェアする
⇒危機意識がコミュニティ形成や連携の強い動機づけとなっている。インターネットにより誰もが情報発信できるようになったことが寄与している
- 世界を知りたい、真実を知りたい、という探究心を持ち続ける
⇒そのうえで、自分で考え、主体的に行動する

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

まとめ

- 経済成長を抑える。社会レベルでエネルギー消費を劇的に削減し、必要分は再生可能エネルギーを使う
- 危機の時代を乗り越えるには、地域やコミュニティの力が重要
- 大切なことを知るためには、メディアリテラシーを高め、仲間やコミュニティで情報共有することが大切

2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座

ご清聴ありがとうございました。



2008.9.9

サステナブルコミュニティづくり講座